

1 2B 社会(中)

2 研究主題

社会的な見方や考え方を働かせ、仲間とともによりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業  
— 2年「首都・東京、一極集中に賛成？反対？」の実践を通して—

3 研究の概要

(1) 研究主題の捉え

岡崎市社会科部の研究主題「社会的な見方や考え方を働かせ、仲間とともによりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業」を受け、私は次のように主題を捉え、研究を進めることとした。

**社会的な見方や考え方を働かせ**

社会的な事象を、位置や空間的な広がり、事象や人々の相互関係に着目して捉え、比較や分類、社会的な事象同士を関連付けながら、多面的(地理的、歴史的、政治的、経済的、社会的、文化的)・多角的(社会的な事象を捉える様々な立場)に考察できると考える。

**仲間とともに**

「仲間」とは、共に学びあう学級の子どもだけでなく、学びを通して関わる人たちもすべて含めたものを意味する。追究において、級友とともに様々な人・もの・こととかわりながら、「仲間」と考えを認め合い、高め合う場を重ねていくことで、考えを深めることができると考える。

**よりよい社会づくり**

「よりよい社会」とは、そこにかかわる人にとって、幸せを感じられる社会(持続可能な社会)である。自分の考えと仲間の考えのよさをそれぞれ生かしながら、東京都の課題解決をめざし、自分なりの問題の解決が見えた先にあるのが『よりよい社会』であると考えている。

**参画をめざす**

「よりよい社会づくり」へ「参画する」という行動化だけをめざすのではなく、行動化への意識や意欲を高めたり、きっかけを作ったりする「参画していこうとする」姿や、社会とのかかわりに「思いをはせる」姿など、「一人ではできない社会の仕組みをみんなで考え、自分ができることをみんなで考える」姿勢、つまり、『参画をめざす』姿が見られるようになることを考える。

(2) 目指す生徒の姿

目指す生徒の姿を以下のように捉えた。

- ・東京が抱える課題に対して切実感を持ち、課題解決に向けて、主体的に学び、自分の考えを構築できる生徒。
- ・話し合い活動において、根拠となる資料を提示しながら自分の考えを表現し、また級友とかかわり合う中で、新たな社会的な事象や様々な考え方を知り、多面的・多角的に考察することで、学びを深め、自分の考えを再構築できる生徒。
- ・学習を通して、東京の人口一極集中などの社会的な事象を自分事として捉え、これからの生活へ生かしていくことができる生徒。

(3) 研究の仮説と手だて

**仮説Ⅰ** 生徒が興味・関心をもてるような教材との出会いの工夫や、生徒が抱いた問題意識を取り上げることで、課題解決に向けた追究活動において、主体的に学びに取り組むことができるであろう。

・手だて① **教材との出会いの工夫**

「世界の魅力的な大都市ランキング」を提示することで、東京にはどんな魅力があるのだろうかという疑問をもつなど、興味・関心をもって東京という街に出合えるようにする。

・手だて② **疑問や気付いた点による次時の学習課題の設定**

毎時間の授業の終わりに振り返りを書かせ、そこから次時の学習課題を設定できるような授業展開を行うことで、生徒たちは自分たちのもつ疑問を追究していきたいという意欲がわき、主体的に学びに取り組めるようにする。

**仮説Ⅱ** 資料の提示を工夫することで、社会的な見方や考え方を働かせ、根拠となる資料を多面的・多角的に見て、自分の考えを構築できるであろう。また、仲間とかかわる場を十分に確保することで、他の生徒の意見と比較、関連付けをしながら、自分の考えを再構築することができるであろう。

・手だて③ **資料の提示の工夫**

生徒の予想を事実として表現できるように、生徒の思考に沿った、精選した根拠となる資料を用意する。

・手だて④ **仲間とかかわる場を設定し、効果的な教師の出を行う**

個の学習を充実させ、自分の考えを再構築させるために、仲間とかかわる場面を確保する。また、考えが停滞したり、比較や関連付けができていなかったりした場合は、個人またはチーム全体に対して行う働きかけを効果的に使い分けることで、個の学習を深める。

・手だて⑤ **見方や考え方を深める意図的指名**

全体発表の場で、多くの生徒が課題に対する考えを深めることができるであろうと教師が考える意見を取り上げることで、生徒は新たな視点で社会的な事象を捉え、自分の考えを再構築することにつながる。

**仮説Ⅲ** 生徒自身が学びの姿を振り返ることができれば、自分の考えと仲間の考えのよさをそれぞれ生かしながら、社会的な事象を自分事として捉え、これからの生活に生かしていけるであろう。

・手だて⑥ **視点を明確にした振り返り活動の設定**

毎時間の授業の終わりに、本時のめあてを再確認し、振り返りを書く時間を設けることで、課題に対して深めた自分の考えや仲間の考えのよさを整理し、社会的な事象を自分事として捉え、これからどうしていくべきかを考えることができる。

(4) 研究単元の設定理由

本単元で取り扱う日本の首都・東京都の地域的特色として、人口の集中があげられる。特に東京23区を中心として多くの人が集まり、東京一極集中が起きている。その要因として、日本の政治・経済・文化などの中心として発達してきたことや、東京大都市圏が拡大を続けることで発達した交通網や情報網により、国内の他の地域や外国との

結び付きが強くなっていることが挙げられ、生活をしていく上でとても便利である。しかし、人口の集中や他地域との結び付きによって、東京では様々な都市問題が深刻化している。例えば、人口過密による環境問題や住宅不足、交通渋滞などの生活をしていくうえで不便なこともある。また、東日本大震災発生時、東京は多くの帰宅難難者を抱えた。災害が起きると、人口の多さゆえに、都市機能は十分に生かすことができないのである。

そこで、東京の都市機能や、関東地方の人々の移動による結び付き、産業などに焦点を当て、東京にはなぜ人が集まるのか、人々はどのように結びついているのか、そして、人が集まることによってどのような課題が起こるのか考えることで、自分なりに日本の首都・東京の未来に目を向けることができるであろうと考えた。そして、人口一極集中についての問題解決意識を高め、東京の抱える課題に対して、社会的な見方や考え方を働かせ、多面的（地理的、歴史的、政治的、経済的、社会的、文化的）・多角的（社会的事象を捉える様々な立場）に考察していくことで、よい社会づくりへの参画をめざすことができるのではないかと考え、本研究実践に取り組むこととした。

(5) 単元目標

- ・東京に関する資料を活用しながら、地域的特色や地域の課題と交通・通信の関係性を理解することができる。  
(知識及び技能)
- ・東京について、交通や通信を中核として、人口などと関連付けながら多面的・多角的に考察し、その結果や過程を適切に表現することができる。  
(思考力、判断力、表現力等)
- ・東京に対する興味・関心を高め、自然的・社会的条件が交通・通信に与える影響について、意欲的に追究しようとする。  
(学びに向かう力、人間性等)

(6) 単元計画

学習課題	学習内容	本時の終末での生徒の考え	時間	研究の手だて
東京の魅力はなんだろう	・世界の魅力的な大都市ランキングを見る。 ・ウェビングマップを用いて、東京に関するイメージや魅力的なもの、こと、場所などを広げていく。	東京には、人が行きたいと思う魅力的な場所（主に観光地）などがたくさんあることがわかった。	1	①⑥
東京にはなぜ人が集まるのだろう	・政治・経済・文化に関する施設の分布や統計の資料を読み取る。 ・東京の都市機能を把握する。	東京には、日本の様々な都市機能が集中していることがわかった。メリットもたくさんあるけど、デメリットはないのかな。	1	②③⑤⑥
東京にはどのような課題があるのだろう	・東京に住むさまざまな人の立場に立って、東京が抱える課題について追究する。	立場ごとに課題は違うが、どの課題も要因は「人の多さ」ではないだろうか。	1	②③④⑤⑥
課題を解決するためにどのようなことをしているのだろう	・東京の課題を解決するために、東京や関東地方の取り組みについて、資料を基に調べる。	東京は、都市の分散など人口が集中しないような取り組みを行っていることが分かった。それでも、人口が集中していて、今後は大丈夫なのだろうか。	1	②③⑥
東京の一極集中について話し合おう	・既習事項を基に、自分の立場を決めて、東京の都市機能一極集中について考える。	一極集中することで技術も進歩するが、さまざまな課題も生まれることがわかった。今後その課題を解決するために、東京はさらに発展していくのではないかと。	1	④⑤⑥

4 研究の実践

(1) 抽出生徒の設定

生徒A・・・社会科の学習に対してとても意欲的で、授業中も基礎的な発問に対しての発言は多い。また、課題に対して自分のもっている知識をもとに自由に予想をたてたり、自分の考えをまとめたりすることもできる。しかし、自分のたてた予想を、根拠となる資料をもとに事実として自分の考えにまとめ、表現することを苦手としている。本単元を通して、根拠となる資料を正確に読み取り、多面的・多角的に見ることで、自分のたてた予想を確かな事実として表現できるようになってほしい。

生徒B・・・社会科の授業に真面目に取り組むことができる。資料から読み取ったことを基に、自分の考えをもつこともできる。しかし、自分の考えに固執してしまったり、物事を一面的に捉えてしまったりすることも多い。本単元を通して、仲間と関わり合いながら、社会的見方や考え方を働かせ、多面的・多角的に社会的事象を捉え、自分の考えを再構築する力を育みたい。そして、社会に参画しようとする姿を期待したい。

(2) 実践について

第1時 東京の魅力はなんだろう

第1時の導入では、資料1の「世界の魅力的な大都市ランキング」を資料として提示し、何のランキングか考えさせることで、東京にはどんな魅力があるのだろうかという疑問をもち、東京という街に興味・関心をもつことをねらいとした「手だて①」。東京、京都と日本の都市が上位に入るこの資料を基に、生徒からは「世界遺産が多い」、「外国人が観光にたくさん来る」などの意見が出た。そこで、教師はこのランキングが「世界の魅力的な大都市ランキング」であることを伝え、「東京にはどんな魅力があるのだろうか」と問いかけた。すると、生徒は「有名な観光地がたくさんある」、「日本の首都だから」などとつぶやいたので、教師はウェビングマップを用いて、東京のイメージや魅力を膨らませるよう伝えた。生徒たちは「東京の魅力」を中心に、チームでかかわり合いながらイメージを膨らませた。資料2は、生徒A、B、Cのウェビングマップである。生徒Aははじめ、「観光スポット」というキーワードでイメージを膨らませていたが、同じチームの生徒Cの「人口」や「交通網」というキーワードを聞き、新たな視点をもって

資料1

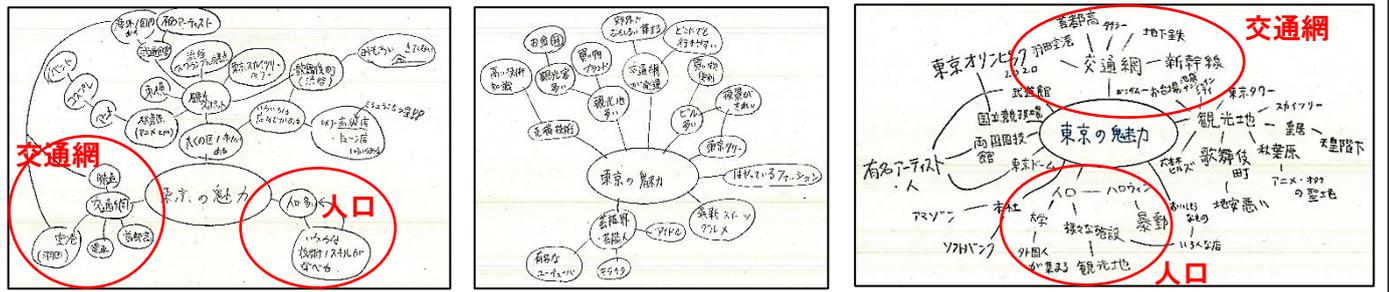
世界で最も魅力的な大都市ランキング(2019年)

1位	東京(日本)
2位	京都(日本)
3位	シンガポール
4位	ウィーン(オーストリア)
5位	大阪(日本)
6位	コペンハーゲン(デンマーク)
7位	アムステルダム(オランダ)
8位	バルセロナ(スペイン)
9位	台北(台湾)
10位	シドニー(オーストラリア)

※アメリカ合衆国の順位は除外されている。  
(ロシア・オーストリア・ブラジル)

イメージをさらに広げることができたことがわかる。全体共有の場では、「観光地」、「人の多さ」、「交通網」、「流行の最先端」「最先端技術」などのキーワードが出てきた。本時の最後に、本時の課題「東京の魅力は何だろう」を再度確認し、自分の考えを整理する、振り返りの時間設けた「手だて⑥」。**資料3**は、生徒A、Bの振り返りである。振り返りでは、「東京の魅力は人が多いことである」、「人が集まって来る」と書く生徒が多くいたため、次時にその課題を追究していくこととした。

**資料2** 生徒A、B、Cのウェビングマップ



**資料3** 第1時での生徒の振り返り

**生徒A** チームの意見も聞きながら、1つ1つ考えを広げていくことで、今まで気づくことができなかった東京の魅力に気づくことができても楽しかった。人が多いと経済が回るので、そこから観光スポットが増え、人が集まって来るのがわかった。観光スポットが増えることで、外国からの旅行者が増え、東京はもっと魅力が増えて行くんだと思ってきた。

**生徒B** 東京は様々な視点からみてもたくさんの魅力があると思った。東京は日本の首都だから、全国各地から物が集まってきたり、東京の中から有名なものが出てきたりし、それがそのまま観光の目的になることが多いとわかった。世界から注目されて、海外からも新しいものが入ってくるのも魅力の1つだと考えました。大きなところから広げて、細かいところまで見ていくと、気付かなかった魅力がたくさんあるとわかった。東京の面積は小さいけれど、その中に魅力が詰まっていると思った。

**生徒C** 東京の魅力は、人口が多いことだと思います。人口が多いからエンタメの施設や学習のための施設、観光のための施設は自然と発達して、それによって経済が回り続けてきたので、東京は世界有数の大都市になったのだと思います。交通網などは、その副産物です。東京は、個人的には今まで行ったことのある都市の中では、一番おもしろい(退屈しない)都市だと思います。

**第2時** 東京にはなぜ人が集まるのだろう

第2時では、生徒Cの前時の振り返り「東京の魅力は人口が多いことだと思います。」という意見を取り上げて提示し、東京に人が集まる理由を追究していく活動を行った「手だて②」。生徒たちがもつ疑問を学習課題にすることで、疑問について追究していきたいという想いが高まり、主体的に活動に取り組むことができた。また、生徒の思考に沿い、スムーズに活動に移ることもできた。まず、教師は、東京都渋谷区のスクランブル交差点の普段の様子を写真で提示し、人口が集中している様子を視覚的に捉えさせ、この人たちは何をしに東京にきているのかを生徒に問うた。すると、生徒は、「仕事」、「通学」などつぶやき、第1時に気づいたこと以外にも東京には人が集まる理由があるのではないかと気づいた。そこで、教師は生徒が自分の予想を事実として表現できるように、生徒の思考に沿った東京の都市機能に関わる政治・経済・文化施設の分布や企業数などの統計資料、航空網の地図などの資料を提示し「手だて③」、「東京にはなぜ人が集まるのだろう」と問うた。すると、生徒たちは自分の予想と資料から読み取れることを基に自分の考えを構築し始めた。**資料4**は、生徒A、Bのワークシートである。生徒Aは、「①官庁街と国会議事堂(資料5)」と「②東京都心部のようす(資料6)」の資料から、「東京には多くの施設があり、大学なども多くあるから、人が集まってくる。大使館が多い→いろいろな国の大使がたくさんいる。」や「⑤成田国際空港の航空網(資料7)」の資料から、「週28便以上と週7~27便がとも多く、海外とのつながりが多い。」、「③関東地方への集中度(資料8)」と「④都市別の大企業の本社数(資料9)」の資料から、「大企業の本社→郊外から働きに」などと表記している。このことから、資料から読み取ったことを基に、東京に人が集まる理由を考えていることがわかる。生徒Bも同様である。全体の意見共有の場では、生徒がそれぞれの意見を多面的にわかりやすく捉えられるように、教師が政治、教育、経済、外国とのつながりなどの視点ごとに分けながら板書し、東京の都市機能が把握できるようにした(資料10)。意見共有の終盤に、生徒たちが「東京は人が集まることで発展してきた」などのプ

**資料4** 生徒A、Bのワークシート

生徒A	資料から考えた、東京に人が集まる理由
①, ②	東京には多くの施設があり、大学なども多くあるから、人が集まってくる。大使館が多い→いろいろな国の大使がたくさんいる。
③	週28便以上と週7~27便がとも多く海外とのつながりが多い。
④, ⑤	東京は文化施設 → 外国とのつながり 大使館 → 外国とのつながり
⑥, ⑦	大企業の本社 → 郊外から働きに 放送局 / 新聞社 → 情報通信 出版社
⑧	皇居 / 国会 / 最高裁 → 政治 重要な機関、政治家

生徒B	資料から考えた、東京に人が集まる理由
①	日本の経済の中心となる重要な機関が集まっている
②	政治家
③, ④	東京には大企業の本社が多い → 東京に働かざる人々が多い。
⑤, ⑥	③ 教育 ④ 経済 日本から海外へ行く人も多く、海外からの在留外国人の人数が多い。
⑦, ⑧	海外との交通網発達 行き来が簡単 ホテルなど、駅の近くに働けるお店が多い。
⑨	大学 → 進学生が多い 大使館 → 外国と交流

**資料5** ①官庁街と国会議事堂



**資料6** ②東京都心部のようす



**資料7** ⑤成田国際空港の航空網



**資料8** ③関東地方への集中度

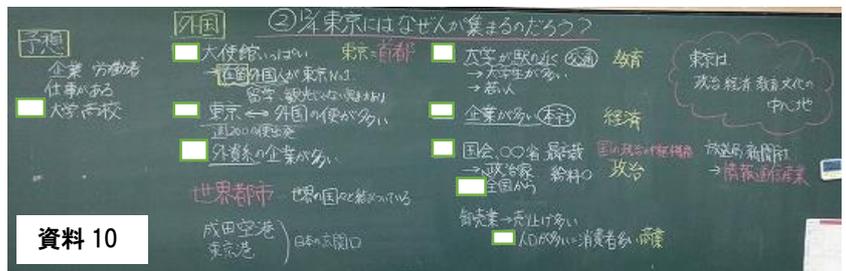
**関東地方への集中度(全国に占める割合)**

項目	関東	全国
人口	34.4%	33.6%
総生産額	44.6%	33.6%
大企業の本社数	68.7%	33.6%
大学	68.7%	33.6%
放送局	68.7%	33.6%
新聞社	68.7%	33.6%
出版社	68.7%	33.6%

**資料9** ④都市別の大企業の本社数

都市	本社数
札幌	2003
仙台	1055
東京	4,350
横浜	2821
川崎	1061
名古屋	2851
大阪	3571
福岡	1491
広島	1001
北九州	1591
その他	4,172
全国計	11,157

ラス面に目を向けていたので、生徒の考えに新しい視点を取り入れるために、ある生徒を意図的に指名した「手だて⑤」。その生徒は、「東京は、人がたくさん集まることで発展してきたけど、それは全部いい事とは限らないんじゃないかな」と発言し、「どう思う？」と切り返すと、「デメリットもあると思う」とつぶやいた。多くの生徒がうなずくなど、この意見に共感しているようであった。そこで最後に、本時の課題「東京にはなぜ人が集まるのだろうか」を再度確認し、また、デメリットについてどう思うかという視点を与え、自分の考えを整理する、振り返りの時間設けた「手だて⑥」。



資料 10

資料 11 第 2 時での生徒の振り返り ※資料から読み取った事実 ※事実からさらに立てた予想

- 生徒 A** ①の資料(官庁街と国会議事堂の写真)を見て、政治の場を固めていると大地震とかテロとかがおきたら、日本は一発で崩れることが危ないと思った。東京は人が多いので、通勤や通学にとっても苦痛することも分かった。人が多いと病気が流行してしまうこともコロナでよくわかった。東京は首都だからこそ人が多く色々発達しているけど、その分デメリットもたくさんあると思った。
- 生徒 B** 東京は、何か 1 つのものの中ではなく、色々な所から見ても、政治や教育、経済、教育、経済、商業、文化などたくさんものの中心となっていることが分かった。東京は、日本の中心都市であるだけでなく、外国とのつながりも深いことがわかった。人がたくさん集まっていることで、発展するものも多いけど、人が多すぎることで、逆に普段の生活で困ることがたくさんありそうだなと思った。(土地が高い、駅が混むなど)でも、その不便な面を改善することも発展につながっていくのかもしれないと思った。

第 3 時 東京にはどのような課題があるのだろうか

第 3 時では、ある生徒の前時の振り返り「人が集まることでメリットもあるけど、デメリットもあるんじゃないかな」という意見を取り上げて提示し、東京に人が集まる事で起こってしまう問題、デメリット面について追究していく活動を行った「手だて②」。第 2 時の振り返りに際し、デメリットという視点を生徒に提示していたので、多くの生徒が取り上げた意見に共感し、主体的に活動に取り組むことができた。まず、前時では東京に人が集まる理由を多面的(政治・経済・文化など)に整理して把握をしたので、今回はそれをさらに多角的(社会的象徴を捉える様々な立場)に見ることができるよう、社会的象徴を捉える立場を確認した。教師が「どんな立場の人がいる?」と問うと、生徒は、「政治家」「俺のばあちゃん」「働く人」など意見が出た。そして第 2 時と同じように、教師は生徒が自分の予想を事実として表現できるように、生徒の思考に沿った「資料 13、14」。今回の資料には、生徒に切実感をもってもらうため、東京に進学で上京した大学生のインタビュー内容を資料として取り入れた。また、本時では、個の学びを充実させ、東京都のかかえる課題をより多面的・多角的に見ることができるよう、仲間とかかわる場を設定し、またその際に活動が停滞しているチームには教師が効果的な声掛けを行った「手だて④」。自分の考えをチーム内で伝えあう時間を設けたことで、仲間の考えを知り、同じ考えには共感し、違う視点をもった考えには、どうしてそう考えたのか聞き合うなど、自分の考えを新しい視点で見つめるきっかけとなった。また、人の立場に立って考えられている生徒やチームには、チームでの話し合いの場で、「この課題で困るのは誰?」と問い直すなど、多角的に課題を見つめ直すきっかけとなった。資料 12 は、生徒 A、B のワークシートである。ワークシートから、生徒 A、B ともに、前時と同じように、提示された資料から読み取ったことを基に、東京が抱える課題について追究できたことがわかる。全体での意見共有の場では、生徒 A は、「③(資料 13 東京と愛知 お金と仕事の格差)と⑥(資料 14 全国の待機児童マップ)で東京は、家賃とか物価が高かったりするから、自分の家の家賃を払うために働きに出ないと行けなくて、だから鍵っ子とか待機児童が多くなる。」と発言し、資料から読み取った物価高という事実から、家賃を払うために働かないといけないう予想を立て、さらにそこから待機児童が増えているという事実に関連づけていることがわかる。その後、生徒の視点を、新たに「外国人」に集め、切実感をもち、自分事として考えられるように、資料 15 にあるように、見方や考え方を深めるための意図的な指名を行った「手だて⑤」。C4 の発言は、外国人の困ることとして挙がっていた意見が、他の立場の人でも困ることがあるように、生徒が気付く、きっかけとなった。意見共有の終盤では、資料 16 にあるように、生徒が出した東京が抱える課題を生徒に問い返しなが

資料 12 生徒 A、B のワークシート

生徒	資料から考えた、東京の課題	立場
生徒 A	① 時刻表はともむい程の遅延があるのに、人が多すぎて乗れない。来るのが大変。	学生、社会人
③、⑤	東京は平均年収や物価指数が全国1位。でも、家賃相場が他の都府県に比べて3倍ほど高い。→東京に住みたい人が多すぎる? / 東京に住むのが大変(お金が全部かかっちゃう)。	一般社会人、学生
①、⑥	人が多いから、外国人が来なくなりました。地下鉄のシステムやルールが分かりづらい。外国人が住むにはどうも大変? 発達している→独特な文化/生活が面白い→大変。コソコソ → 大層の日本人? が → 悪い。	外国人
⑤	東京は発展している。	全員
③、⑥	東京は家賃が高い。物価が高い。住みづらい。(なごり)	子供、子供の親
メモ	①、② 人々車 → 事故	社会人
④	東京に住むのに ストロー現象 過疎化	みんな
③、④	物価(家賃) → 生活する上で大変	みんな
生徒 B	資料から考えた、東京の課題	立場
①、③、⑤	① 朝、はたいてる人が学校に行くなんて。通勤・通学大変。③ 高速道路も混む。事故・犯罪。駅が混む	働く人、学校へ通う人
②、④、⑥	物価指数 全国1位 → 物価高 (家や会社) 地価や家賃も高。生活にお金	生活する人
⑥	人口が多すぎて保育所に入れない児童。定年お年寄り	(親) 子と
⑤	人混み。駅、お店、常に人離れした所に住むと	住民
④	乗ると排気ガスで、気温が高。空気が少。活。平均気温	住民

資料 13 東京と愛知 お金と仕事の格差

東京	愛知
平均年収 614.97万円(全国1位)	平均年収 537.05万円(全国3位)
物価指数 108.5(全国1位)	物価指数 99.8(全国10位)
家賃相場 7.72万円(23区)	家賃相場 4.62万円

物価指数 物価の大きさを100とし、それに対しての上昇・下落の比較をみる数値的指数

資料 14 全国の待機児童マップ



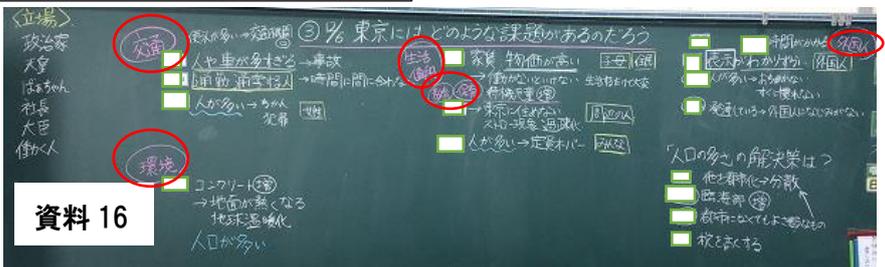
た。生徒は、「交通」「環境」「生活・値段」「外国人」「保育・教育」などのグループに分けた。その後、多くの課題が出てきたので、課題を解決するために、教師は視点を絞ることを生徒に伝えた。すると、生徒は**資料 17**のように、課題の要因を考えていった。そして教師は、「人口が多い(人口を減らす)」という課題を解決するためにどうすればよいか、生徒に問いかけた。生徒からは、「房総半島の都市化をして分散する」「臨海部の開発」「都市になくてもいいもの移転」などの予想があがった。本時の最後に、本時の課題「東京にはどんな課題があるのだろう」を再度確認し、また、東京の課題(人口の多さ)解決についてどう思うかという視点を与え、自分の考えを整理する、振り返りの時間設けた**手だて⑥**。**資料 18**にあるように、生徒 A、B ともに、本時の追究活動を通して「どのような活動を行っているのか知りたい」、「様々な課題を解決するための方法を考えていきたい」と書いており、社会的事象に関心を深めていることや自分事として考え始めていることがわかる。そこで、次時は、東京の課題解決に向けての追究活動を行うこととした。

**資料 15** ※C1 は、生徒 A

- T1: 結構これ(外国人)考えている子、外国人目線であらう子結構いいなと思ったんだけど、どうですか?  
 C1: ①(通勤時間の新宿駅の写真)と⑦(tripAdvisorQ&A)を使って考えて、人が多いから外国人も落ち着いて生活できなくて、流されてしまったり。外国人がすぐに住んで、すぐに過ごしやすい生活が送れない。  
 C2: ⑦の資料で、外国人が会話が通じないこともあるから、自分で書いてもらうことができなくて、他の人もよくわからないから、仕事とか通勤の遅れをとったり時間がかかってしまう。  
 C3: C1に付け足して、人が多くて流されちゃう、周りも見えなくて表示とかも見えないかもしれないから。  
 T2: ここもおもしろかった。自分たちが東京に行ったらどうだった?しゃべってくれない?  
 C4: (意図的指名)自分が東京に行ったときに、駅の入り口とか出口とか多すぎて、日本でも全くわからなかったかた、外国の人よりわからないと思う。

**資料 17**

- T1: これさ、いいこともあるけど、課題も結構出てきたね。課題が出てきたから、解決したいなと思うんだけど、多すぎるもんで、ちょっとしぼりたい。  
 T2: これ、多くのことの1番繋がっている、イバ(ある)要因って何だと思う?  
 C1: (それぞれつぶやく)  
 T3: 交通の起こっちゃう要因は何?  
 C2: (つぶやき)人口が多い。  
 T4: 家賃、物価が高いは?  
 C3: (つぶやき)人口が多い。  
 T5: 外国人は?  
 C4: (つぶやき)しゃあない。  
 T6: これはしようがない。これ(外国人)はこれ(人が多い)とは違うってこと?  
 T7: 環境は?  
 C5: (つぶやき)人口が多い。  
 T8: 都市化してるってことほ?  
 C6: (つぶやき)人口が多い。  
 T9: ということは、解決しなきゃいけないのは?  
 C7: (つぶやき)人口を減らそう。



**資料 16**

**資料 18** 第3時での生徒の振り返り

**生徒A** 東京には多くのデメリットがあり、デメリットは、一部の人たちだけでなく、全員に関係することも多いことがわかった。東京で生活することはとても大変で、お金がかかり、家族への心配もふえることがわかりました。外国人でも日本人でも地下鉄は難しいから、もう少し簡単なシステムにしてほしいと思った。東京の人口を減らすために、今の東京は、どのような活動を行っているのか知りたいと思いました。

**生徒B** 東京はいろいろな立場の人にとっての課題がいくつかあることがわかった。駅が混んだり、物価が高い、保育所に入れない待機児童が多いなど、意見かかわりがなさそうな課題でも、原因を考えると、人が多いことが基になっていることが多いとわかった。原因が同じなら、改善していく方法が見つかりそうだったと思った。様々な課題を解決するための方法を考えていきたい。

**第4時** 課題を解決するためにどんなことをしているのだろう

第4時では、生徒Bの前時の振り返り「様々な課題を解決するための方法を考えていきたい。」という意見を取り上げて提示し、東京が行っている人口集中問題解決に向けて調べていく活動を行った**手だて②**。今回も前時の最後の生徒の予想を根拠のある事実として表現できるように、生徒の思考に沿った、東京の人口分散に関する資料を提示した**手だて③(資料19)**。生徒は近畿地方の学習での既習事項も踏まえ、資料を正確に読み取り、東京が行っている現在の対策について把握できたことが、**資料 20**のワークシートからわかる。そして、本時の最後に、本時のめあて「課題を解決するためにはどんなことをしているのだろう」を再確認し、自分の考えを整理する、振り返りの時間を設けた**手だて⑥**。**資料 21**の生徒Bの振り返りからは、現状ではまだ課題が解決しきれていない事にも気づき、かつ、1つ対策しても、また別の新たな課題が出てくることもわかっていることが読み取れる。社会的事象を関連付けながら考察していることがわかる。

**資料 19** 第4時で使用した資料



**資料 20** 生徒A、Bのワークシート

資料の番号	課題解決のためにしていることは?
②、③	東京のまわりに住む → 東京に通勤・通学 → 通勤・通学が楽になる
④、⑦	→ まわりの県に人(通) まわりの県への価値を高める
④	臨海部に人が集まるスポット → 人が分散
①、⑥	会社の位置づけははら → 会社 → 年代別(若外)へ 他の県に都心 → 人が分散
資料の番号	課題解決のためにしていることは?
①	密集していた会社を分散させる → 東京駅かあそび場(4区)外へ1点に集約させる
⑥	東京だけでなく、さいたま市も発展させて、人口をうつしている。
④	東京の中で、都市ではないところに魅力をもたせ、人を分散させている。臨海部(西側部)
⑤	東京の地価を高くして、臨海部を安くして → 人を臨海部に移動させる
③、⑦	東京都以外から → 人口が増えない 感度(だけ)減らす

**資料 21** 第4時での生徒の振り返り

**生徒A** 東京は、人口の集中という課題をわかっていて、その解決に向けて、都市機能を分散させたり、臨海部の開発をしたりしていることがわかった。でも、どれも効果がうすかったり、うまくいっていないのかなと思った。大都市は、どうしてもいろいろな課題が生まれてしまうんだなと思った。

**生徒B** 前回の授業で東京には課題がいくつかあることがわかったけど、今回でその課題を解決するために、会社を移転したり、地価を上げて人口を分散させたり、東京以外に都市をつくらせて首都機能を分散させていることが分かった。それでもまだ、ターミナル駅が混んだり、ドーナツ化現象が起きているという課題がまだまだあると思った。発達にかかせない交通網に関する課題は速く解決する必要があると思った。

**第5時** 東京に一極集中に賛成か反対か話し合おう

第5時では、最後のまとめとして、現在の東京の一極集中に賛成か反対かの話し合いを行った。まず生徒は、第4時までの既習事項を使い、「東京に一極集中」に賛成か反対か、自分の立場を決め、その理由を考える。その後、チームでの意見交流を行い**手だて④**、全体で意見共有を行った。**資料 22**は、生徒A、Bのワークシートである。生

